

ある団体の会合で、伊東市在住で社会福祉士としてさまざまな活動をされている梅原聖（うめはらきよし）さんという方をお招きして「心の居場所について」という御題の講演をいただくという話を聞いて、非常に興味があったので私も聴講をさせていただきました。とても良いお話を聞かせていただけたので、簡単にまとめてシェアをさせていただこうと思います。以下



社会福祉士 梅原聖氏



梅原氏の講演の様子

○日本は核家族・単身世帯が非常に多くなっていて、2025年になると団塊の世代と呼ばれる75歳以上の後期高齢者の比率が非常に高くなると言われる。それに対して出生率は年々下がっていて子供の数は少なくなっている。ニュースなどでも2025年問題ということが言われているが、2025年を皮切りに日本という社会が、総人口の30%が後期高齢者になる時代が到来する。

○一方で、世界の人口については、2017年現在、地球上で約72億人のさまざまな民族の方々が生活をされている。この中には当然日本人も含まれているが、約1億2000万人といわれる日本人の割合は世界の70分の1にも満たない。民族としての少数性が浮かび上がる。

○日本という国の特質として、概ね単一民族国家として、肌の色が黄色で、1つの文化、1つの言語、1つの歴史でほぼ統一されてきた国家だと言われているが、最近では帰化申請をして日本国籍を取得する外国人も増えてきているし、このような傾向も徐々に変わりつつある。

○そのような世相の中で、人々の心が分断されつつあるように感じることが多い。事実、国内の以前行われた世論調査で、日本国民の44パーセントが孤独を感じていると回答をしている。同じ調査でアメリカでは20パーセント、ヨーロッパでは17パーセントと回答をしていたが、日本は国民の約半数が孤独という異常な環境だと思う。

○最近の国内の動きを見てみると、児童や高齢者の虐待のニュースがほぼ毎日報じられている。また職場環境などにおいては、ハラスメント問題といて、パワハラ、セクハラとか権限を使った抑圧的な行動が問題視されている。また自殺、孤独化、独居高齢者の孤独死、煽り運転等…とても心が荒んでいるような事が多く、日本人がなにかを失って彷徨っているように見えてならない。

○そのような社会の流れがなぜ強くなっているのか。分析をしてみたところ、第二次世界大戦が終わって高度経済成長の時代が訪れた。物質的には経済大国となったが、同時に日本人が大切にしてきた伝統的な文化や心、歴史が後回しにされてきたという印象がある。

○個人が主役の時代になったことも要因の一つ。いわゆる個人主義という言葉があるが、個人主義のメリットが生かされるのではなく、デメリットばかりがこういう社会を作ったのではないか。最近のニュースで煽り運転の映像を見た。個人の主張ばかりが強くなってしまい、人命や人権、お互いを尊重して大切にできなくなっていることの表れだと思う。

○他人のことよりも自分のこと。利他の心より利己の心がどうしても優ってしまうことが、さまざまな犯罪や社会問題を生み出しているのではないか。このような心の枯れ、心の貧困をそのまま放置することはできない。心が落ち着いて安らいで安心する場所。これが一体どこにあるのか？このことが心の居場所の答えになるのかと思う。

○具体的には、「遠くの親戚より近くの他人」という言葉があるように、自分の身近にいる人々との繋がりが、こういうことをもっと大事にしていくことが大切だと思う。例えば、地域のお寺のお彼岸やお盆などの行事などに積極的に参加をすとか、地元の神社のお祭りに協力をして盛り上げていとか、そういう日本人としての伝統を軸に心の結びつきを強めていく。

○あるいは、グラウンドゴルフでも地域のボランティアでも何でもいいが、町内ご近所の方達との連携を強

め親睦的な関係を築く。このような努力がいざ困った時にお互いに助け合ったり同情し合ったり、そういう心の孤独を埋める人間関係を強めていくことにつながっていくのではないかと。

○さらには「心の居場所」とともに、「心の安らぎ」の場所も意識的にも無意識にも求められているという直感もある。また、時間の関係で別の機会に譲るが「お墓のあり方」ということも、日本国民全体の心の居場所と関連する大きな関心事と感じている。

○そのように、利害では語れない「心」の繋がりということを積極的に深めていくような連携こそが、誰もが安心して暮らせる良い社会を造り出していくのだと思うので、それらの動きをもっと加速させていくような流れが昨今の社会には一番必要なことなのではないかと思っている。

以上、抜粋してご紹介したので、しっかりと梅原氏のおっしゃる意図をお伝えできたかわかりませんが、大体このようなお話を聞かせてもらいました。いろいろと考えさせられることが多く、非常に良い勉強をさせていただいたのですが、自分自身ももっと地域の中に深くとけ込む努力が必要だと思いました。また、この記事をお読みくださった方も、このようなお話を参考にいただき、ご自分の「心の居場所」をしっかりと構築していただければ幸いです。ありがとうございました。合掌

浜松南部地区 いきがい特派員 丸山敬